

1 学年だより

令和3年11月15日(月)

夢の宅配便

1 年学年主任
水野 喜代治

責任転嫁

いかなる時も人は、最終的には自分が物事を判断しています。ですから自分の行動には責任を持たなくてはなりません。よく、失敗や過ちを責任転嫁する人がいます。失敗や過ちの原因を自分でなく、人のせいにしたり、周りのせいにする人です。何にか、失敗や過ちがあったときに、自分を振り返って物事を見つめられる事ができる人と、他人や周りに責任を転嫁する人では、その後の成長に大きな差ができます。他人や、周りに責任を転嫁すると自分が悪くなくなります。全ては周りが良くないとするのです。このような発想では、失敗や過ちを反省して次に生かすことができません。

例えば、テストの問題ができなかったら、自分の「学習の準備が遅かった。」とか「学習内容を十分に理解していなかった。」と振り返って、そのところを次のテストに生かしていくことが大切です。しかし、「テスト問題が悪いからできなかった。」とか「授業での教え方が悪いので理解できなかった。」など自分自身を振り返らずに周りに責任転嫁する人は、人を批判して終わってしまいます。このような姿勢は、日常生活の至る所で見られます。「不注意で給食をこぼしたのも、狭いところで配膳させている給食の準備の仕方に問題がある。」とか、「僕が、部活の試合でシュートをミスしたのは、パスが悪かったからだ。そして、審判が反則をしっかりと取らなかったからだ。」とか周りのせいにして、事を済ますことは良くあることです。

「ミスしたのは、私が不注意だったからです。」「忘れ物をしたのは、自分がしっかりメモを取らなかったからです。」などと自分自身をしっかり振り返ることが大事だと思います。周りのせいに生きていくことは、楽だし、自分の過ちを認めなくても良いから、安易に陥りやすいですが、そうならないように生活して行って欲しいです。一度、人のせいに生きてくことを覚えると、常に責任転嫁をするようになって行くので、気をつけなければならないと思います。時々、自分が悪いのに、文句をつけている大人を見ると恥ずかしい気持ちになりますよね。

キヨたんの詩

手招き

する、よき

薄ゆり

